

白山麓におけるニホンジカのライトセンサス 2025

川 島 敦 仁・北 原 岳 明・近 藤 崇・岩 本 華 奈・有 本 紀 子

石川県白山自然保護センター

Spotlight census of Sika deer (*Cervus nippon*) at the foot of Mt. Hakusan (2025)

Atsuhito KAWABATA, Takaaki KITAHARA, Takasi Kondo, Kana Iwamoto, Noriko ARIMOTO

Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa

白山麓のニホンジカ生息状況を把握するため、ライトセンサス調査を11月中旬から12月上旬にかけて4つのルートについて行った。2025年は原沢4頭、五十谷4頭、市ノ瀬14頭の3つのルートで、計22頭のニホンジカを確認した。2022年から2024年における各年のこのルートにおける総数が、1頭から4頭までであったのに対し、特に市ノ瀬で急増していた。

近年、ニホンジカの確認が増えてきている瀬波については、2023年から調査日数4日間をベースとして取り組み、2023年に17頭、2024年に34頭であったが、2025年は18頭の確認に留まった。2025年に関しては、積雪により調査日数が1日少なくなったことと調査日前の積雪に伴い、調査地域でもある瀬波ルート沿いの松尾山周辺からのニホンジカの移動も考えられ、その確認数の減少に影響していると思われる。

雌雄の比率については、前年と同様に雄が雌の約2倍確認されている。雄の比率が高いことから、現状の白山麓は分布拡大の前期にいると考えられる。ライトセンサス調査を継続することは、白山麓におけるニホンジカの分布拡大状況の把握に寄与することが期待される。

はじめに

石川県においてニホンジカ (*Cervus nippon*) (以下、シカ) が高密度化した場合に、危惧される問題の一つに、白山の高山植物への影響が挙げられる。そこで、生息密度が低いと考えられている現状から白山麓のニホンジカ生息状況を把握するため2018年からライトセンサスを実施しており(近藤ほか, 2019)、今回は2019年から2025年までの7年間に行った調査結果について報告する。

方法

調査は2019年から、毎年11月中旬から下旬にかけて石川県白山市の林道を中心に、表1の調査ルー

トで行った。2023年は過去4年間の結果と調査地の状況をもとに、視認性が悪い西山と通行止めとなった調査地を除いた4つに絞り、ニホンジカがこれまでも確認数が多かった瀬波地区に関しては、日を数日設け、複数回の調査を行うこととした。標高40–830m、1ルートにつき6–17kmで調査を行った。(表1, 図1)。調査ルートの植生はブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹林を中心として、一部にスギ人工林が点在する。調査時間は日没後の概ね17時半から20時半の間として、運転手1人、観察者2人から3人で行った。車はハイビームをつけて時速10km程度で走行し、観察者はスポットライト(Q-Beam 400,000 candlepower BIG MAX, BRINKMANN 社製)で左右をそれぞれ照らして動物を探した。動物を発見した場合は停車し、必要に応じて双眼鏡やフィー

ドスコープを用いて動物の種類を確認し、位置情報とともに記録した。地図は国土地理院の電子地形図25000を加筆改変して使用した。

結果

2025年は、市ノ瀬、原沢、五十谷の3つのルートでニホンジカを計22頭確認した。そのうち、市ノ瀬では、2024年までは多くても4頭までの確認であったが、2025年は14頭と急増した。また、2023年からは、増加が懸念される瀬波をのべ4日間をベースに調査を試みた。瀬波川を挟んだ松尾山やオンソリ山の山腹、距離にして約100m~150mにニホンジカを双眼鏡やフィールドスコープで確認、また、その対岸となる山林に雌雄不明のニホンジカが距離にして約40~50mにいるところを目視できた。ニホンジカは2023年に17頭、2024年に34頭、2025年は18頭の確認となった(表3)。2022年新規調査ルートとした原沢(小松市原町~沢町間の林道)、五十谷(白山市五十谷町近隣)においてこれまで2022年の4頭

が両ルート合計のニホンジカの確認の最多であったが、2025年は計8頭と倍増した。

ニホンジカ以外では、2019年以降コウモリ類(*Chiropterasp*)、タヌキ(*Nyctereutes procyonoides*)、ツキノワグマ(*Ursus thibetanus*)、テン(*Martes melampus*)、ニホンカモシカ(*Capricornis crispus*)、イノシシ(*Sus scrofa*)、アカギツネ(*Vulpes vulpes*)、ニホンウサギ(*Lepus brachyurus*)、ハクビシン(*Paguma larvata*)、アナグマ(*Meles anakuma*)など、年により、中型不明、大型不明が目撃された。

表1 調査概要①

調査地	標高	距離(km)	日付	時間	調査者ほか			
西山	660-1070m	9	2019		通行止のため実施せず			
			2020/11/19	17:37-18:06	八神、小川、宮崎			
			2021/11/19	17:31-18:30	八神、宮崎、稲田			
			2022/11/22	17:30	川島、近藤、有本			
2023より中止								
赤谷	470-830	10	2019/11/22	18:45-19:48	八神、宗田、稲田			
			2020/11/19	18:37-19:23	八神、小川、宮崎			
			2021/11/19	19:03-20:44	八神、宮崎、稲田			
			2022より中止					
市ノ瀬	530-830	10	2019/11/18	17:45-18:39	八神、北市、宗田、稲田			
			2020/11/17	17:48-18:34	八神、宮崎、稲田			
			2021/11/16	17:37-18:20	八神、宮崎、有本			
			2022/11/21	17:25-17:50	川島、宮崎、北原			
			2023/11/21	17:40-19:18	川島、北原、小倉			
			2024/11/25	17:23-19:31	川島、北原、岩本			
			2025/11/19	17:28-19:54	川島、北原、岩本			
			瀬波	300-490	6	2019/11/29	17:42-19:05	八神、小川、北市、野上
						2020/11/26	17:38-18:28	八神、北市、小川
						2021/11/29	17:39-18:38	八神、川島、村中、稲田
2022/11/22	19:07-20:34	川島、近藤、有本						
2023/11/22	17:23-18:49	川島、近藤、小倉						
2023/11/27	17:18-19:00	川島、村中、北原、有本						
2023/12/4	17:39-19:19	川島、北原、有本						
2023/12/6	17:27-18:17	小倉、近藤、安田						
2024/12/2	17:20-19:05	北原、近藤、有本						
2024/12/4	17:18-19:13	川島、近藤、北原						
2024/12/9	17:17-18:28	川島、北原、近藤						
2024/12/12	17:31-19:02	川島、北原、岩本						
2025/11/27	17:19-18:47	川島、近藤、岩本						
2025/12/1	17:22-19:04	北原、近藤、有本						
2025/12/9	17:21-19:02	川島、近藤、岩本						
高倉山	310-990	17	2019/11/26	17:22-19:29	八神、小川、宗田、野上			
			2020/11/24	17:20-18:52	八神、北市、稲田			
			2021より中止					
原沢	40-130	5	2022/11/24	17:29-18:22	川島、北原、近藤、村中			
			2023/11/20	17:44-18:27	川島、北原、近藤			
			2024/11/20	17:40-18:25	川島、北原、近藤			
			2025/11/26	17:25-18:26	川島、北原、近藤			
			2022より					
五十谷	200-330	6	2022/11/24	18:32-20:11	川島、北原、近藤、村中			
			2023/11/20	18:36-19:45	川島、北原、近藤			
			2024/11/20	18:35-20:06	川島、北原、近藤			
			2025/11/26	18:36-20:08	川島、北原、近藤			
2022より								

※調査者の先頭は運転手兼

表2 調査結果概要②

年	調査地						
	瀬波	原沢	五十谷	市ノ瀬	西山	赤谷	高倉山
2018*	カモシカ2,テン1 中型不明1	—	—	アナグマ1,モモンガ1	中型不明1	カモシカ2,キツネ1,テン1	ノウサギ1,タヌキ1 カモシカ1,中型不明1
2019	なし	—	—	タヌキ1,ツキノワグマ1, 中型不明1	実施せず	コウモリ類1	なし
2020	ニホンジカ1,カモシカ2, テン1,中型不明3	—	—	中型不明1	なし	テン1	テン1,タヌキ1
2021	ツキノワグマ2, キツネ1 カモシカ1,中 型不明2	—	—	なし	なし	ニホンジカ7,イノシシ1, ツキノワグマ1, カモシカ1	
2022	ニホンジカ5, カモシカ6,ノウサギ2 ハクビシン2,アナグマ1	ニホンジカ2,テン1	ニホンジカ2,ハクビシン1 中型不明2、大型不明1	なし	なし		
2023	表3に別記	キツネ1、ニホンジカ1	キツネ1,タヌキ1	ニホンジカ3,カモシカ2,キツネ1,中型不明1			
2024	表3に別記	フクロウ1、キツネ1、中型不明1	ニホンジカ1,カモシカ1,タヌキ1、小型不明1	カモシカ1,テン3、ハクビシン1、コウモリ1			
2025	別記	ムササビ1、ニホンジカ4	ニホンジカ4,タヌキ1	ニホンジカ14,カモシカ1,テン3,タヌキ1,イタチ1			

中型不明はタヌキ、アナグマ、キツネと推測

瀬波における目撃種(頭数)

目撃種	2023				2024				2025		
	1回目	2回目	3回目	4回目	1回目	2回目	3回目	4回目	1回目	2回目	3回目
ニホンジカ♂	2	4	4		2	10	4	6	3	7	1
ニホンジカ♀		4	△1			7	2		1	3	
オダシ(雌雄不明)			2			2		1	1	2	
カモシカ	11 + △3	3	2		3	1		1		2	
テン	2		1	1		3	2	1			
キツネ											
タヌキ											1
ハクビシン	1					3			1		
イノシシ			1		2	4	3	3			
イタチ									1		
ノウサギ	1	1		1							
サル		△1									
ムササビ						1			1		
コウモリ						2				1	
中型不明		1	2					1	1	1	

△:可能性高

△:可能性高

△:可能性高

考察

2019年から2021年のライトセンサスでは、ニホンジカと確認できたのは2020年の瀬波の1頭のみであり、ニホンジカと思われるものは2021年の赤谷の4頭であった。2022年は新規調査地の原沢、五十谷で各2頭であったが、瀬波で5頭とこれまでに多く確認された。2023、2024年の瀬波における各4日間にわたる調査では、2023年に17頭、2024年に34頭と飛躍的に増加した数のニホンジカが確認された。しかし、2025年は11頭の確認に留まった。2025年に関しては、調査日数が1日少なかったことと調査日前の積雪に伴い、調査地点でもある瀬波ルート沿いにある松尾山周辺からのニホンジカの移動も考えられ、その確認数の減少に影響していると思われる。雌雄の比率については、雄が雌の約2倍確認された。白山麓は雄の比率が高いことから、分布拡大の前期と考えられる。ニホンジカの定着が進んでいくと、それに伴い雌の比率が高くなっていくことが想定される。近年、自動撮影カメラ（北市ほか、2021）や糞塊調査（石川県、2022）においても確認数の増加がみられており、ニホンジカの密度を低く抑えるよう個体群を管理していくことが必要で、そのための基礎資料とするため、調査地点の再考も含め、様々な手段を駆使して生息状況のモニタリングを継続していくことが重要である。

引用文献

石川県第3期ニホンジカ管理計画(2022).

北市 仁・近藤 崇・江崎功二郎・有本 勲・宗田典大・内藤恭子・稲田奈緒・小川弘司・小谷直樹・野崎亮次
(2021) 白山周辺地域における自動撮影カメラによるニホンジカ生息状況調査. 石川県白山自然保護センター研究報告. 47 : 39-44.

近藤 崇・北市 仁・八神徳彦・小川弘司・村中克弘・亀田尚志・稲田奈緒 (2019) 白山麓におけるニホンジカのライトセンサスの試み. 石川県白山自然保護センター研究報告. 45 : 11-14

図1 調査地全体図 2023 以降の調査地は枠線

